

**ベルク&ブリソンが選りすぐる、レーシングヒーローたちの歴史的写真コレクション
『スピード感がもたらすスリル（原題：For the Thrill of Speed）』展、
M.A.D.Gallery で開催**

熱狂的なカーマニア、ダニエル・ベルクとセルジュ・ブリソン。二人は車への熱い想いを原動力に、かつてのモータースポーツ界のあらゆるシーンを捉えた数々の写真の中から忘れ去られた瞬間に光を当てよみがえらせます。『スピード感がもたらすスリル（原題：For the Thrill of Speed）』展は、有名写真家たちが捉えた伝説的ドライバーらの一栄一楽を表現する、優れたモノクロ写真コレクションです。

会場となるMB&F M.A.D.Galleryに入ると同時に、私たちは皆カーマニアとなってベルク&ブリソンの写真コレクションに夢中になってしまいます。カーレースの歴史を守ることを目指すだけでなく、スリリングでチャレンジングなモータースポーツの、輝かしい始まりを称える素晴らしい芸術作品の集大成。写真コレクションとしての見所にあふれた展覧会です。

スピード感がもたらすスリル

1925年から1963年はモータースポーツ界に大きな変化がもたらされた時期で、このコレクションではそれを回顧する6点の写真を紹介しています。過酷なレースとして名高いル・マン24時間レースなど、有名なカーレースで繰り広げられた憂愁と勝利の瞬間が私たちに感動をもたらします。ゴール直前の激しい競り合いや壮絶なクラッシュを描写する写真の一枚一枚が、レーシング界のパイオニアたちの熱烈なストーリーを語りつつ、時間さえも止めてしまうかのようです。

これら6点の写真のほとんどは高く評価された才能あるフランス人写真家、ルネ・パリが手がけたものです。ルネ・パリは1931年生まれ。完璧なテクニックを持ち合わせていただけでなく、最適な瞬間に最高のショットを捉えるという非常に優れた才能を持ち合わせていました。ベルク&ブリソン・チームはルネ・パリの貴重なネガを探し出し、非常にデリケートで細かい修復プロセスを取り入れ、それらを見事に復活させました。

『勝利への道 - アルフォンソ・デ・ポルターゴ - 1956年 ツール・ド・フランス（原題：On the Road to Victory - Alfonso de Portago - Tour de France 1956）』においてルネ・パリは、流し撮りテクニックを使用してスピード感を醸し出す躍動感を表現しています。このパワフルな構図では、フェラーリ250 GT no. 73（シャシー0557GT）が出す馬力がしっかりと捉えられ、その官能的なラインにピントが合わせられ、ぶれたコースとのコントラストが完璧に表現されています。

象徴的なショットを捕らえるため、ルネ・パリはローライフレックスの2眼レフを使用し、プレスカーから体を乗り出して撮影しました。まさに、この状況ならではの不可能を可能にした技術的

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール：jd@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 36

なチャレンジでした。1956年のツール・ド・フランスで優勝を取めたスペインのアルフォンソ・デ・ポルターゴ侯爵とアメリカ人エドモンド・ネルソンのペアは伝説的ドライバー。彼らの存在がこの写真のさらなるprestige感を演出します。この二人は1957年のミッレ・ミリアのレース中、事故の巻き添えとなり悲劇的な死を迎えました。

「写真家のパイオニアの手によって、カーレースのパイオニアが永遠に不滅となる。これらの写真は間違いなく、技術の専門家と真のアーティストの眼識を証明しています。」とベルクは説明します。

巨匠ルネ・パリは、グラフィックス・スピード・グラフィックのビューカメラを使用して、感動的な写真『アキーレ・ヴァルツィー1947年 スパ（原題：Achille Varzi - Spa 1947）』を誕生させました。これは複雑な機構を採用したカメラで、各露出に新しい4×5インチのシートフィルムホルダーを装填する必要があり、完璧に操作するには複数のステップを要します。この写真は第10回ベルギーグランプリ（第8回ヨーロッパグランプリ）において、熱狂的な観衆に取り囲まれたイタリア人レーサー、アキーレ・ヴァルツィーを撮影したもので、彼の勝利への決意が感じ取れます。アキーレ・ヴァルツィーは、アルフェッタという愛称で呼ばれたアルファロメオ 158で出場。54回の参戦数のうち47回も優勝の座を獲得したという、カーレース史上極めて重要な車です。

『これがカーレース人生—1954年 ル・マン（原題：Such is Life in Racing— Le Mans 1954）』は、イタリアのイノセンテ・ビアッジョ伯とドミニカ共和国出身のプレイボーイ、ポルフィリオ・ルビロサが、フェラーリ375 MM No.18（シャシー 0380）で参戦した際の不運な出来事を捉えたものです。この車は、北米レーシングチームの創設者で当時のフェラーリのインポーターとしての先駆者ルイジ・キネッティから託されたものでした。ル・マン24時間レースで有名なポイントであるミュルサンヌのコーナーに差し掛かると、フェラーリはスピードアップします。ところがコントロール不能となり、スピンしながら砂地のバンクに突入してしまっただけです。フェラーリを砂地から出そうと、ビアッジョはライトグレーのアルパカ製スーツ、シルクのシャツ、そして黒い蝶ネクタイ姿で砂を掘り起こし、コースに戻ろうとします。まさにトップクラスの気品！

彼は一時間ほど懸命に努力を続けフェラーリを掘り起こそうとしましたが最後には諦めてしまいます。その後、ズボンと靴のホコリを落とし、再び帽子を被り、タバコに火をつけました。ルネ・パリは適切な場所に適切なタイミングでいたことからレース史上でも象徴的なこの瞬間を捉えることができました。

コース上でもコース外でも繰り広げられるのがカーレースのストーリー。『モン・ヴォントウ 1925年（原題：Mont Ventoux 1925）』は1925年の南フランスでの一枚ですが、これを撮影した写真家の名前は分かっていません。Delage DFが坂道を上る瞬間が、リンホフ・マスターテヒニカのビューカメラで完璧に切り取られており、写真は現在では、完璧な形で修復されています。またカーレースは苦痛なしでは語れないもの。それをまさしく表現しているのが、『これがカーレース人生—1951年 ランス（原題：Such is Life in Racing - Reims 1951）』。ドライバー、コン

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール：jd@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 36

サルボ・サネージが機械的故障をおこしたアルファロメオ159 no. 6を全力で押す懸命な姿が描写されています。

『ビハインド・ザ・シーンー1963年 ル・マン（原題：Behind the Scenes - Le Mans 1963）』が物語っているように、レースに関わる究極なシーンは常にコース上で見られるわけではありません。これはポルシェチームが1963年のル・マン24時間レースに向けて、極秘の準備に取り組む様子を撮影したものです。

「モータースポーツでは機械上のレベルが問われるものですが、実際のストーリーは人間関係で出来上がっています。この冒険の舞台裏には多くの男性や女性が関わっているのです」とベルクは説明します。

各オリジナルのネガはシリアル化されたホログラムを含む証明書が付帯され、21のファインアートフォトグラフィプリントの限定コレクションを作成します。芸術作品として写真は最高級の紙に印刷され、最高品質の反射防止アクリルガラスでアルミニウムのフレームが施される、Diasecプロセスが採用されています。

エキスパートコラボレーション

カーレースをテーマにした希少で入手困難なネガを探し出すというある種の使命感を持ちながら、ベルク&ブリソンは独特なチャレンジに立ち向かっています。過去10年間において彼らは、伝説を作り上げた要素が完璧に織り込まれている貴重な写真の数々を追求し続けてきました。特にガラスプレートのネガなど特別なネガを求めて世界中を旅した彼らは、何千ものネガを目にし、その中から際立ったものだけを収集してきました。

貴重なネガを選び抜いた後は、今日の最先端技術と融合し、当時のネガから最高の画像を引き出します。修復担当の才能豊かなアーティストチームがまず、時間の痕跡を取り去ります。破損部分、キズ、スリット、折り目、シミにも対応しながら各問題の性質や状態に応じて特別な技術を施します。保存年数と保存状態と合わせてネガのマウントに対応する必要があるため、このプロセスには通常多くの工程を要し、時間もかかります。大変緻密な修復作業が必要となり、特にゼラチンフィルムのネガには数時間、破損が大きいガラスプレートの場合は数週間かかります。ネガをファインアートのクオリティーで印刷して作業は終了です。これはアーティストの作品を正しく複製するための重要な決定的なステップです。

「私たちは細心の注意を払って写真家たちのネガを慎重に取り扱います。私たちには彼らの作品に何らかの変更や修正を加える権利はありません」とベルクは述べています。「彼らに対する私たちの絶対的な敬意があってこそ、このコレクションが特別で唯一無二の存在となるのです。」

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール：jd@mbandf.com 電話：+41 22 508 10 36

創設者について

自らを熱狂的な車好きと称するダニエル・ベルクとセルジュ・ブリソンは、1995年のリエージュ・ソフィア・リエージュ マラソンラリーで出会いました。その時点で彼らはモータースポーツと写真という二つの情熱を共有することとなったのです。この年の出会い以降、彼らは驚くことにモンテカルロラリーに6回、ほかにも数多くのラリーに参加し、共にビジネスプロジェクトを手掛けました。

そして2009年には、アート・スピード・ギャラリーが誕生しました。「私たちの情熱を製作プロセスに関わるすべての職人やアーティストたちに伝えることができ、光栄に思っています。これはお客様の期待を超える、この上ない情熱なのです。」とベルクは述べています。アート・スピード・ギャラリーではカーレースの歴史的遺産を保全し、様々な芸術作品を通じて人々の感情を伝えています。

写真家経歴

ルネ・パリ、1913年5月20日パリ生まれ。1935年の兵役時代に航空写真家としての職務を担当します。第二次世界大戦の直後、ルネ・パリは写真レポーターとしてフランスの新聞社「リベラシオン」で最初のキャリアをスタート。そのほか、フランス通信社や「フランス・ソワール」、「フランス・ディマンシュ」など他の新聞社とも協業しました。1947年になると、カーレースをこよなく愛した彼は、偉大なドライバーたちとの出会いが実現したサーキット場で撮影をし始め、ガラスプレート式の優れた写真を誕生させました。

1951年、彼はフランスの新聞社「ル・フィガロ」の写真部に入社します。そこでは著名なフランスのジャーナリスト、ベルナール・ピヴォとのコラボレーションを実現し、また偉大なアーティスト、俳優、作家たちの写真を撮り続けました。1955年までには、車の愛好家であり写真レポーターであるルネ・パリは非常に有名な写真家としてフランスだけでなく、国際的にも名を馳せるようになりました。1974年、ル・マン24時間耐久レースから戻った数週間後に息を引き取りました。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください：

Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)

Eメール : jd@mbandf.com 電話 : +41 22 508 10 36